

を進めている。秋田県の伝統的な水産加工品であるハタハタ寿司は、個人が数十 kg 単位で生鮮ハタハタを購入することから、ハタハタ食文化の継承と消費の維持を図るために個人でのいずしの製造を振興することも重要である。そこで、2020 年 1 月に県内で開催されたハタハタ寿司グランプリの会場（図 3-3）において、寿司の出品者らに原材料としたハタハタの入手先について聞き取りを行ったところ、多くの方が寿司を漬けるのに必要な量のハタハタを入手し難いと感じており、その要因として漁獲情報や直売情報の不足を指摘した。次年度は、本課題で構築するリアルタイム情報提供システムを活用することで、産地仲買を経由する従来の流通ルートの活性化はもとより、漁場や漁期、漁獲量変動の大きなハタハタを消費者により確実に、廉価に購入できる新たな販路の確立に向けた取組みを進める予定である。

小課題4:漁獲等情報の共有化に関する指針の検討

日本海北部海域では、2019 年 11 月 14-15 日、新潟市にて、日本海ブロック等の研究者を参集して、ICT ネットワーク構築に関する事業の進捗、機器の仕様・利用状況等の意見交換とともに、漁業者と研究機関との間の情報共有での課題と対策についても意見交換した。漁船位置（GPS）の共有化については、漁獲位置と航跡を区別して議論する必要があることがわかった。また、航跡情報の開示は地域・船によって見解が分かれるようであった。適宜、個別に同意を得ることがこれからも必要である。漁獲情報の共有化については、研究者が資源評価に利用するということは一定の理解を得ていると推察されるが、より大きな広域のデータベースを想定した場合、開示相手のイメージがしづらく、議論が深まっていない状況にあった。そこで、協力漁業者との議論のために、今年度、漁獲・操業・水温モニタリングシステムにより収集した漁獲情報を専用 web サイトで示すよう改善した。このサイトで示される表の項目は、漁獲日時、魚種の地域名（サイズ情報を含む）、漁獲数量、単位（地域・魚種ごと）とした。船名は個人情報の括りが曖昧であることから、一旦、未表示とした。そして、このサイトは、研究機関・漁協等・船などのレベルのそれぞれで ID とパスワードで表示内容を選択・管理できるようにした。この表を上越地区の漁業者に紹介しながら漁獲情報の共有についてアンケート形式で聞き取りした。漁獲情報の共有化は、「個人情報特定されることがないのが大前提」、「データ提供もやぶさかではないが、提供情報のみで資源評価がなされ、トップダウン方式で漁獲管理（獲らない）されることがないようにすべき」、「両隣の地域の漁獲情報は回遊してくる魚などで興味がある」などの意見があった。これらを踏まえると、データベースへの集約に際しては、船名をランダム番号等に変換してデータ管理することや、GPS 情報は航跡全てではなく漁獲位置・観測位置のポイント情報のみとすることを基本とする必要があると考えられる。今後も漁業者および関係者の意見収集に努め、よりよいデータベースとし、指針を作成することが重要である。

【図・写真・表】

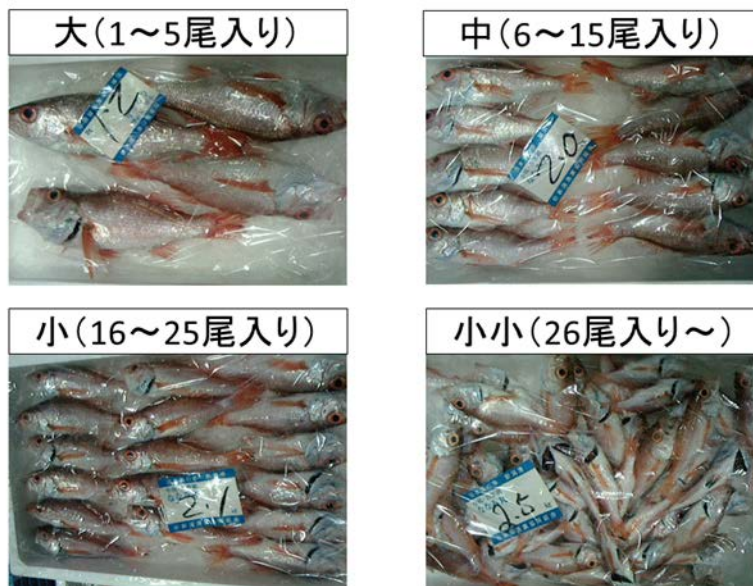


図1-1:アカムツの銘柄別区分

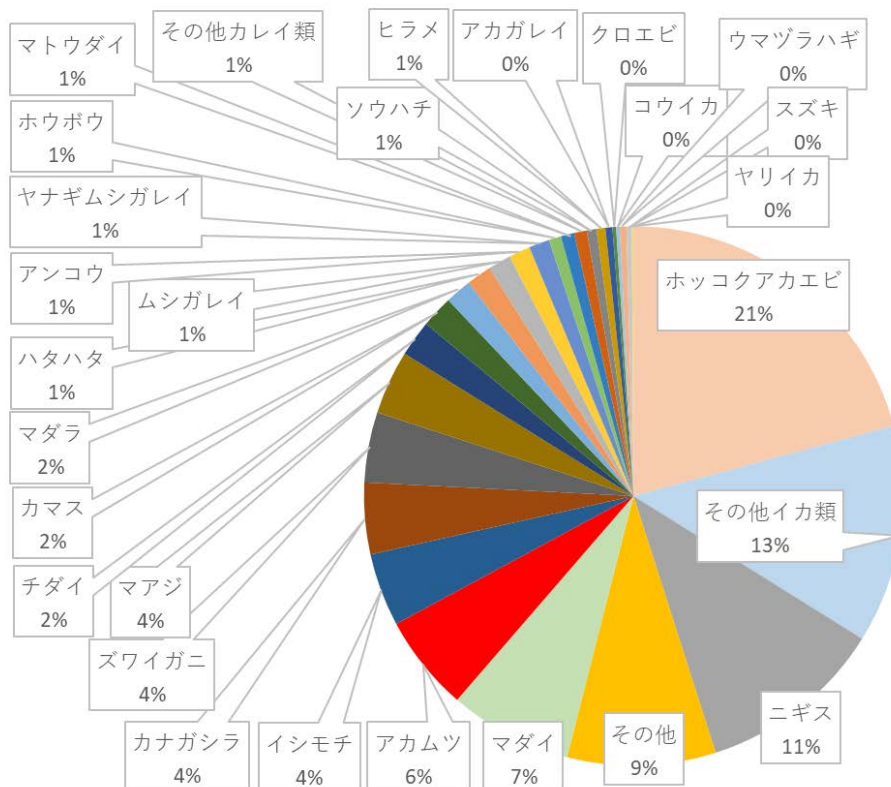


図1-2:標本船2隻の魚種別漁獲量割合

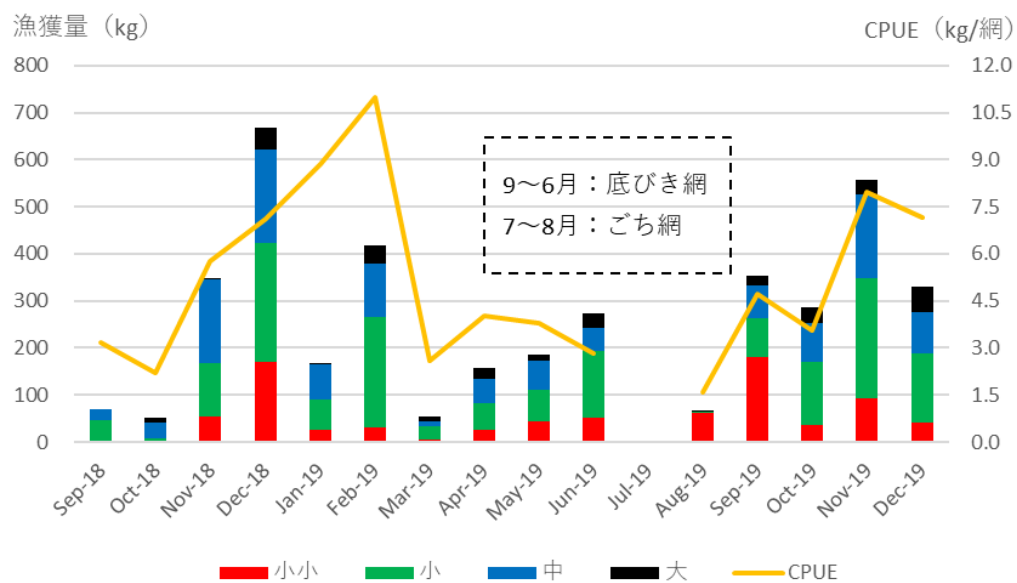


図1-3: 標本船2隻の月別銘柄別アカムツ漁獲量およびCPUE

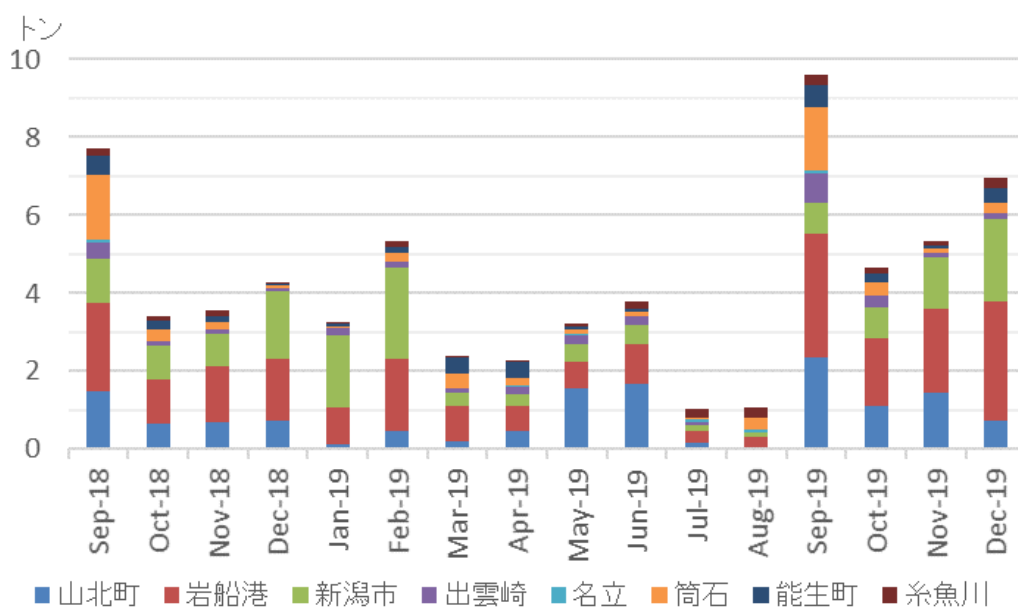


図1-4: 新潟県主要8地区の月別アカムツ漁獲量(全漁法)

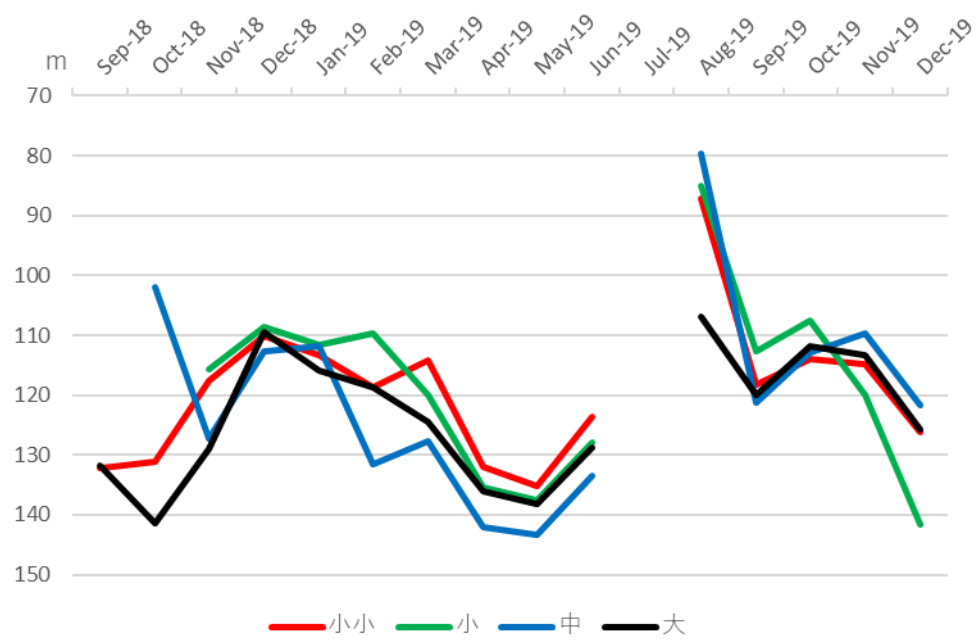


図1-5: 標本船 2 隻の月別銘柄別アカムツ入網平均水深

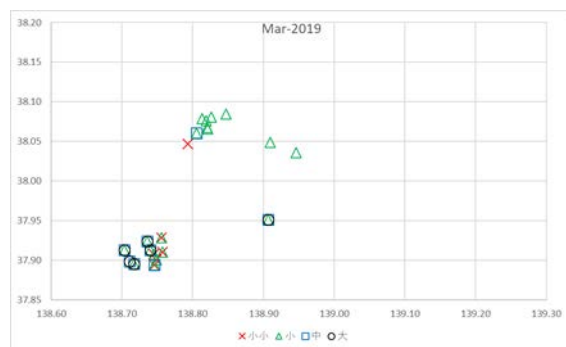
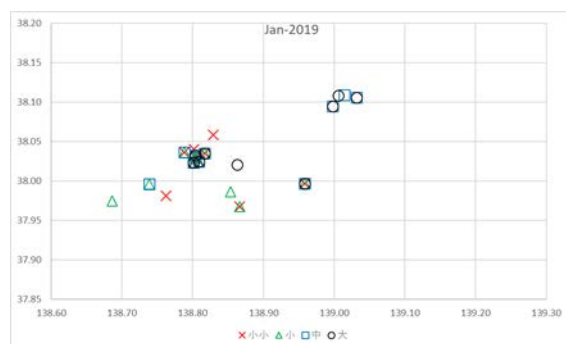
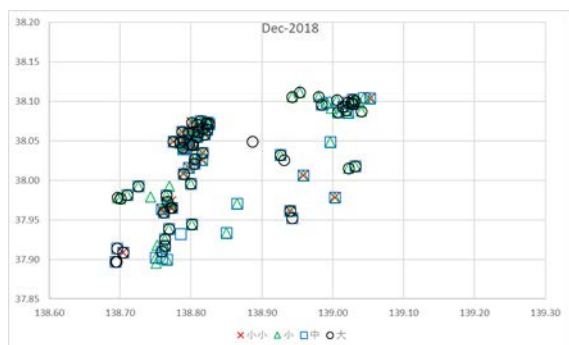
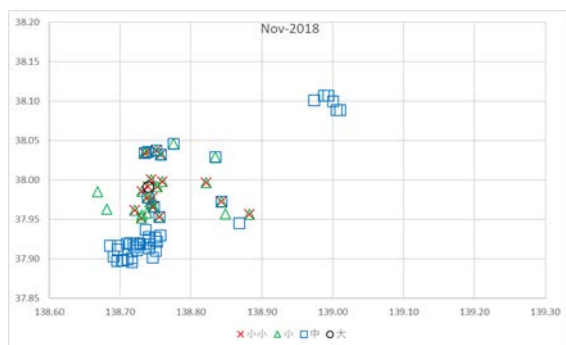
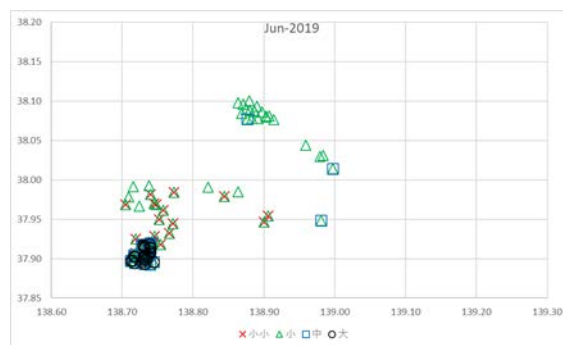


図1-6: 標本船2隻の銘柄別アカムツ入網位置 (2018年9月から2019年4月)



2019 年 7 月は漁獲なし

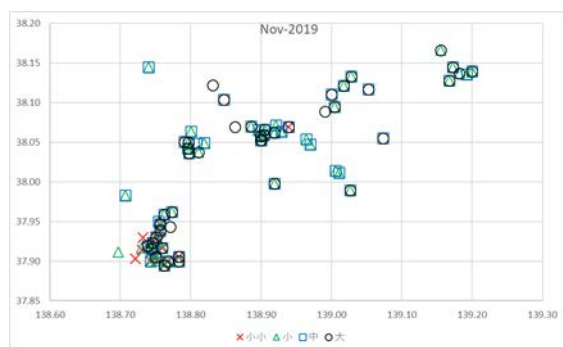
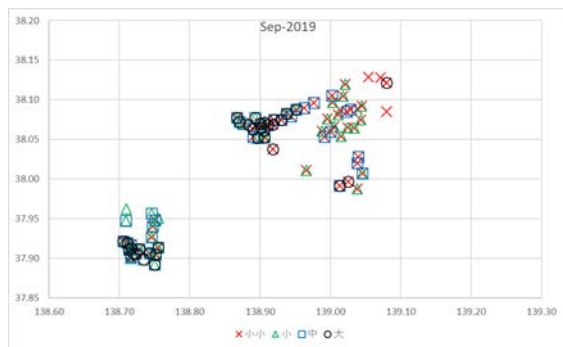
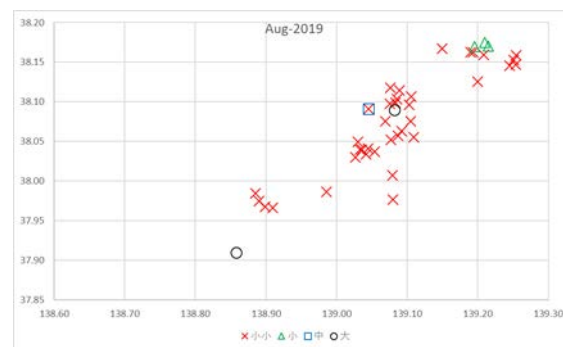


図1-6: 標本船 2 隻の銘柄別アカムツ入網位置 (2019 年 5 月から 12 月)

表2-1 新潟県上越地区の協力船毎の入力データに基づく網数

年	ES丸	HE丸*	KS丸	KY丸	DE丸	合計
2016	68	9				77
2017	42	41	284			367
2018	237	90	518	122	85	1052
2019	588	96	611	368	289	1952

* HE丸は刺し網、その他は底びき網。

表2-2 新潟県上越地区の協力船毎の年別入力数(入力行数)

年	ES丸	HE丸	KS丸	KY丸	DE丸	合計
2016	171	9				180
2017	144	97	817			1058
2018	782	363	1808	272	219	3444
2019	1536	464	2352	762	765	5879

* HE丸は刺し網、その他は底びき網。

表2-3 新潟県上越地区の協力船毎の月別入力数(入力行数)

年	月	ES丸	HE丸*	KS丸	KY丸	DE丸	合計
2016	10	33					33
	11	88	6				94
	12	50	3				53
2017	1	52					52
	2	53	3				56
	3		5				5
	4	11	3				14
	6	14	9				23
	7		26	256			282
	8		13	237			250
2018	9		10	94			104
	10		14	127			141
	11	14	14	84			112
	12			19			19
	1			11			11
	2		17	51			68
	3	32	23	116			171
	4	33	24	103			160
	5	79	90	277			446
	6	49	84	199			332
	7	19	51	341			415
	8	66	18	186			271
2019	9	86		65	39	24	214
	10	135	15	221	89	53	513
	11	175	26	183	84	61	529
	12	108	15	55	57	79	314
	1	24	6	71	12	27	140
	2	133	62	138	42	24	399
	3	164	68	210	127	40	609
	4	237	74	229	151	52	743
	5	174	92	244	62	55	627
	6	159	26	251	27	89	552
	7	354	5	338	9	38	744
	8	28	50	243	34	30	385
	9	120	30	180	57	72	459
	10	66	23	167	80	117	453
	11	43	11	62	39	63	218
	12	34	17	219	122	158	550

* HE丸は刺し網、その他は底びき網。

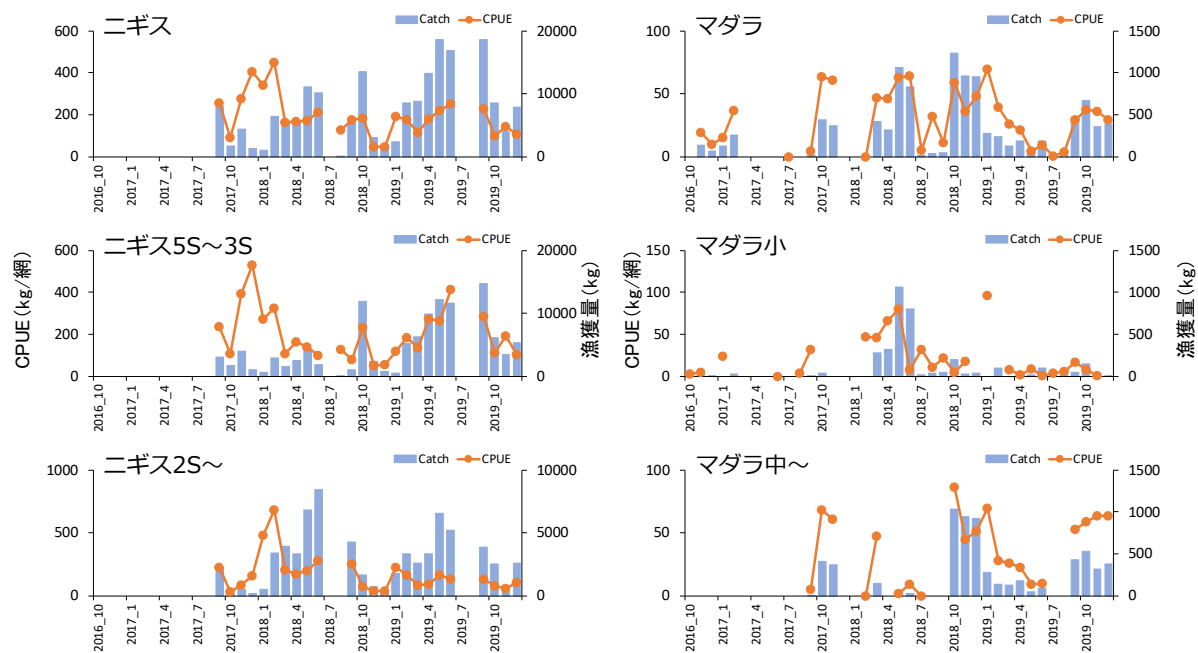


図2-1 2016年10月～2019年12月の魚種・サイズ別の月別CPUEおよび漁獲量（その1）
（左：ニギス、右マダラ）

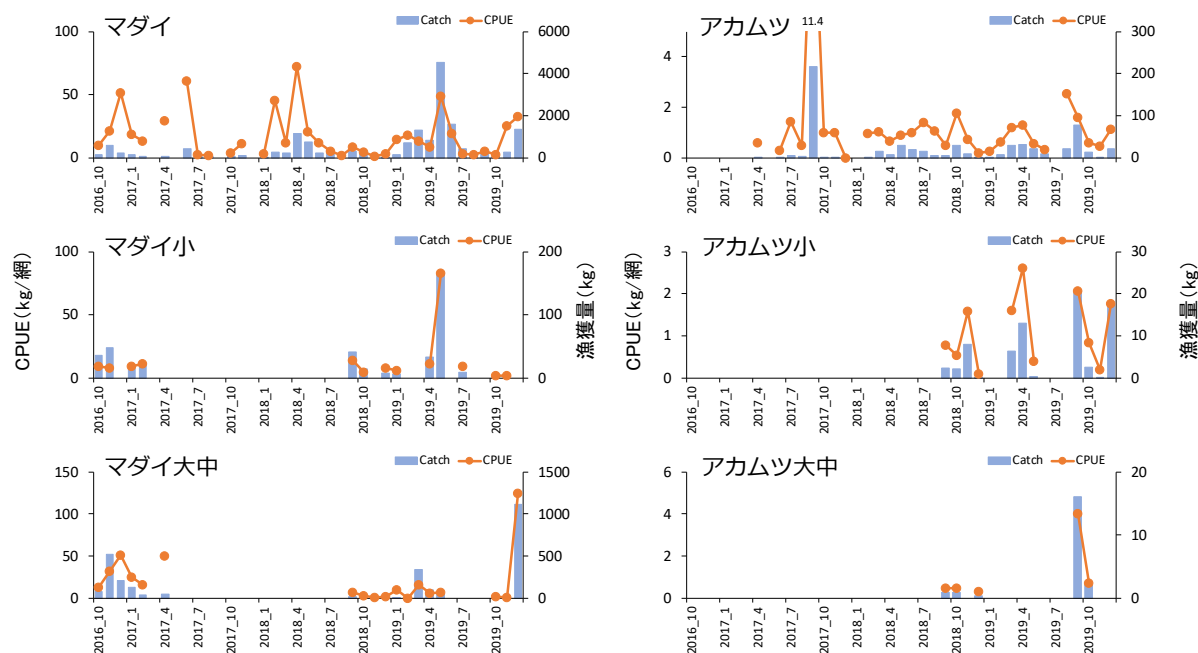


図2-1 2016年10月～2019年12月の魚種・サイズ別の月別CPUEおよび漁獲量（その2）
（左：マダイ、右アカムツ）

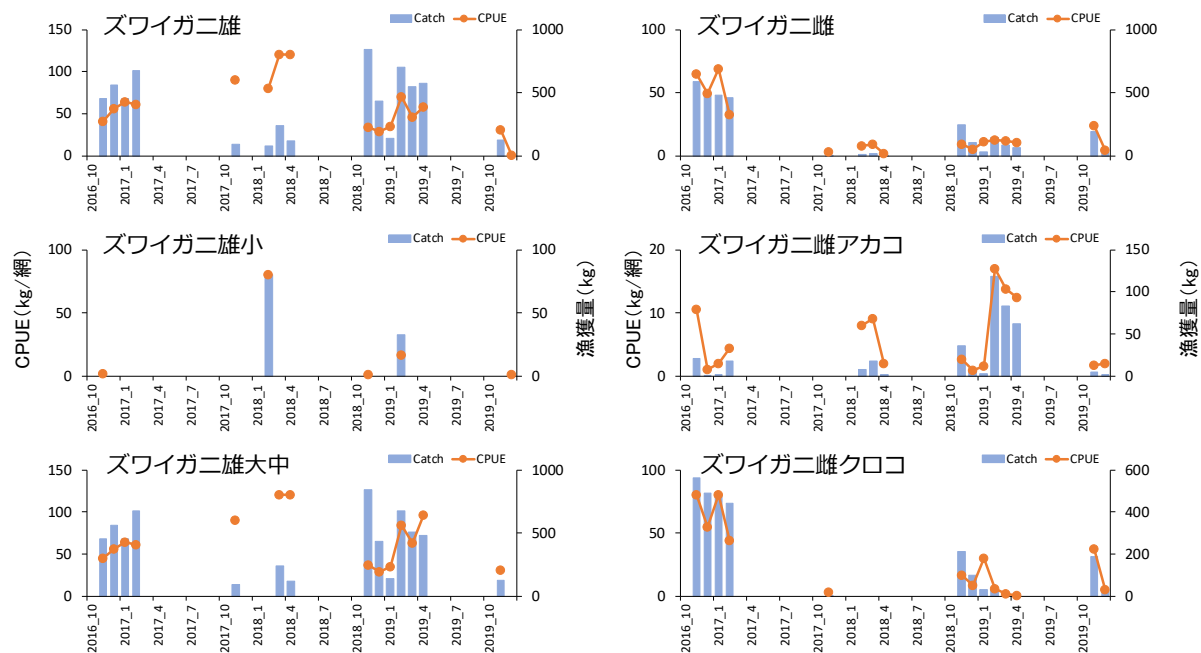


図2-1 2016年10月～2019年12月の魚種・サイズ別の月別CPUEおよび漁獲量（その3）
（左：ズワイ雄、右：ズワイ雌）

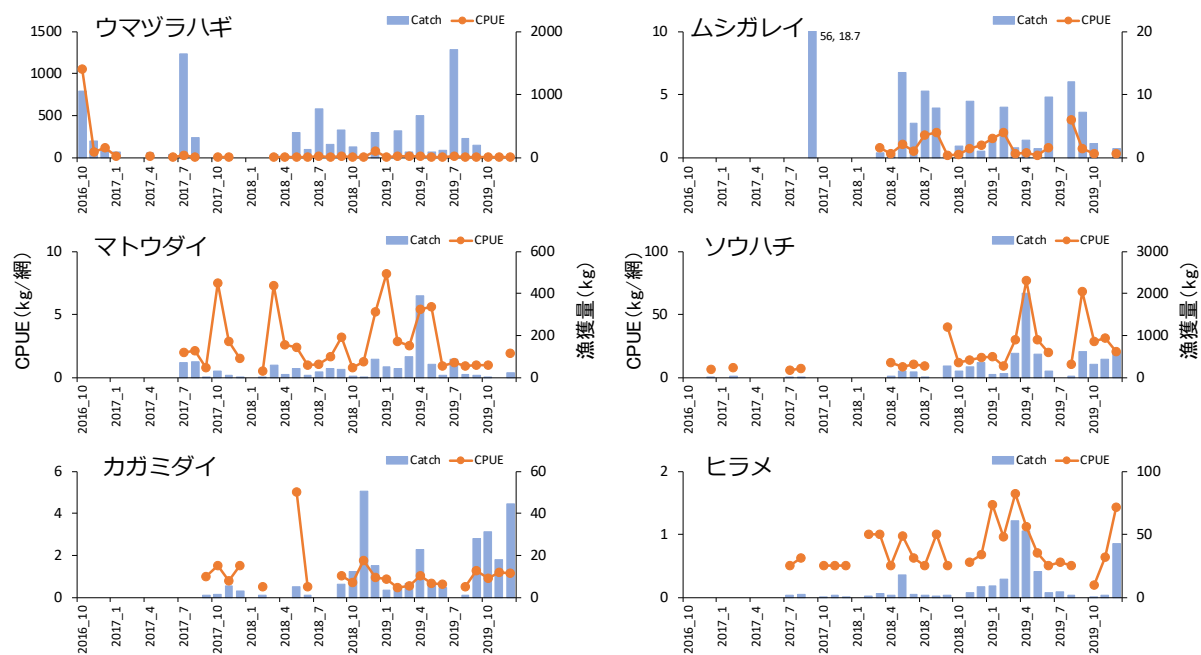


図2-2 2016年10月～2019年12月の魚種別の月別CPUEおよび漁獲量（その1）

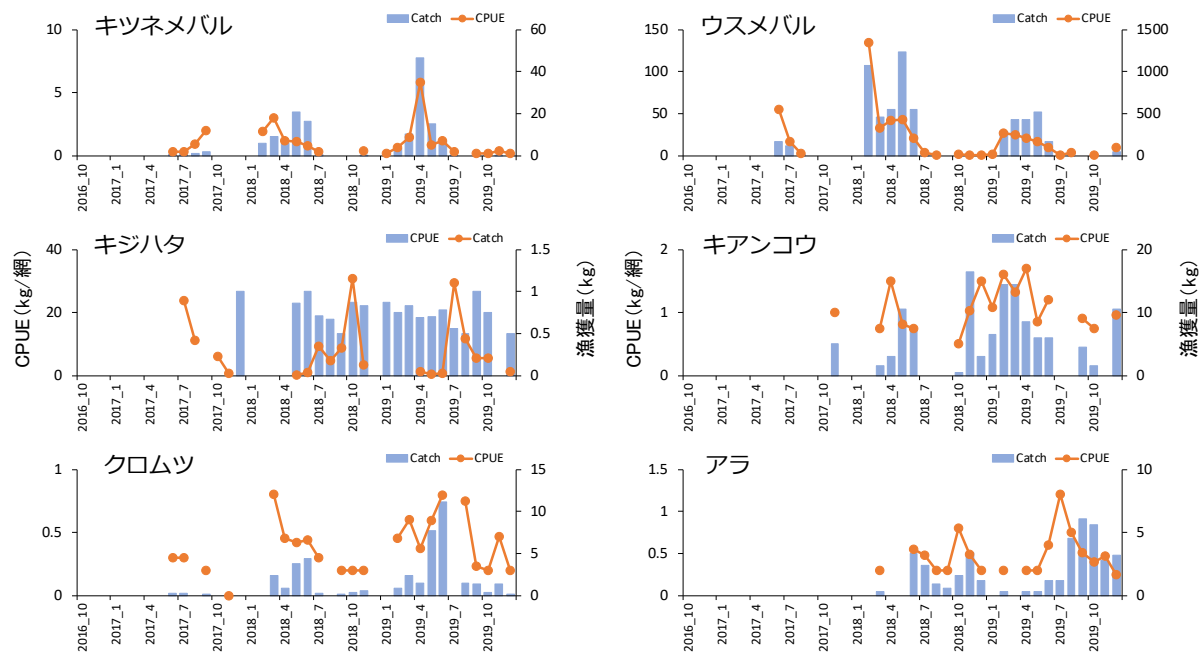


図2-2 2016年10月～2019年12月の魚種別の月別CPUEおよび漁獲量(その2)

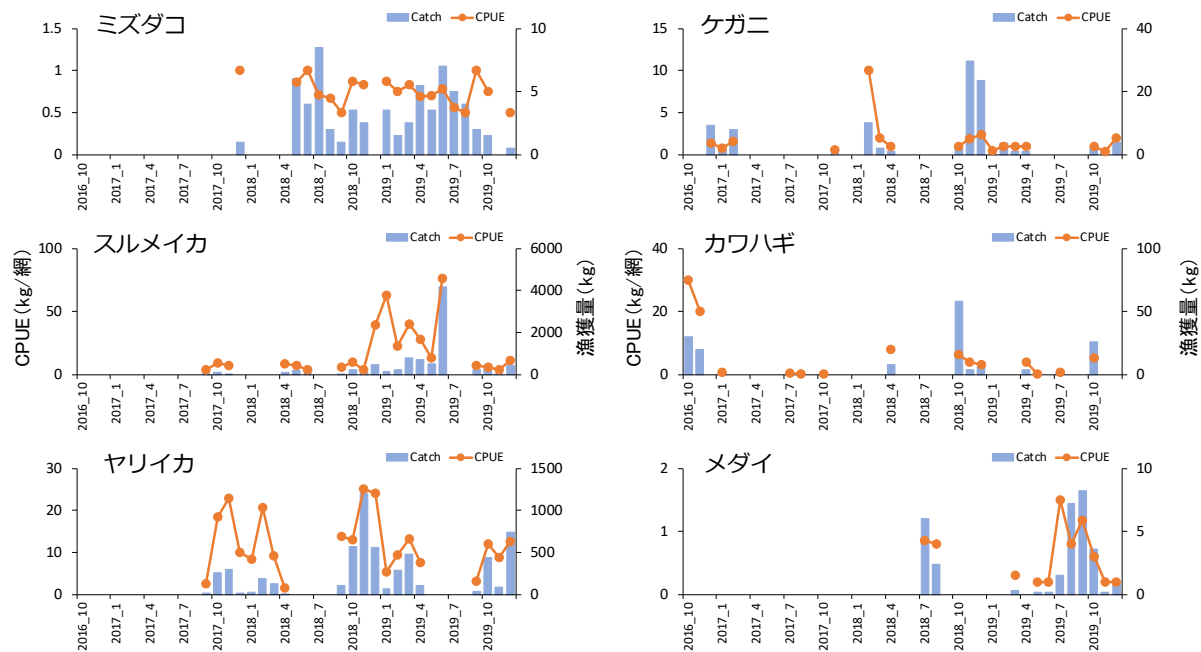


図2-2 2016年10月～2019年12月の魚種別の月別CPUEおよび漁獲量(その3)

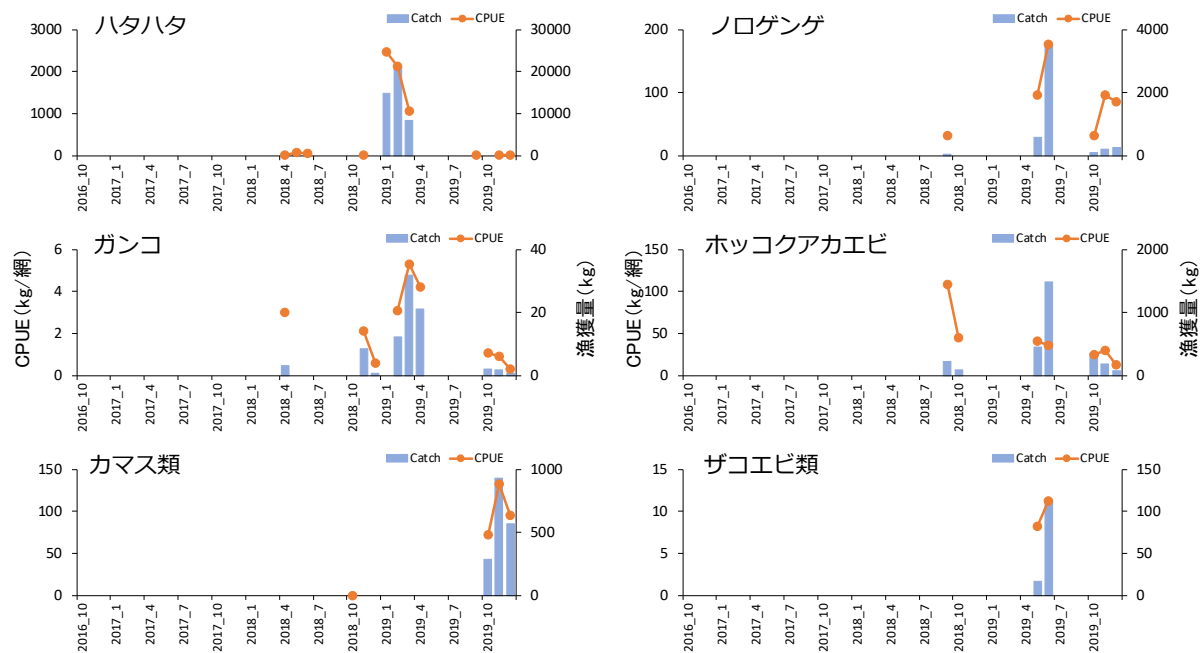


図2-3 2016年10月～2019年12月の魚種別の月別CPUEおよび漁獲量(その1)

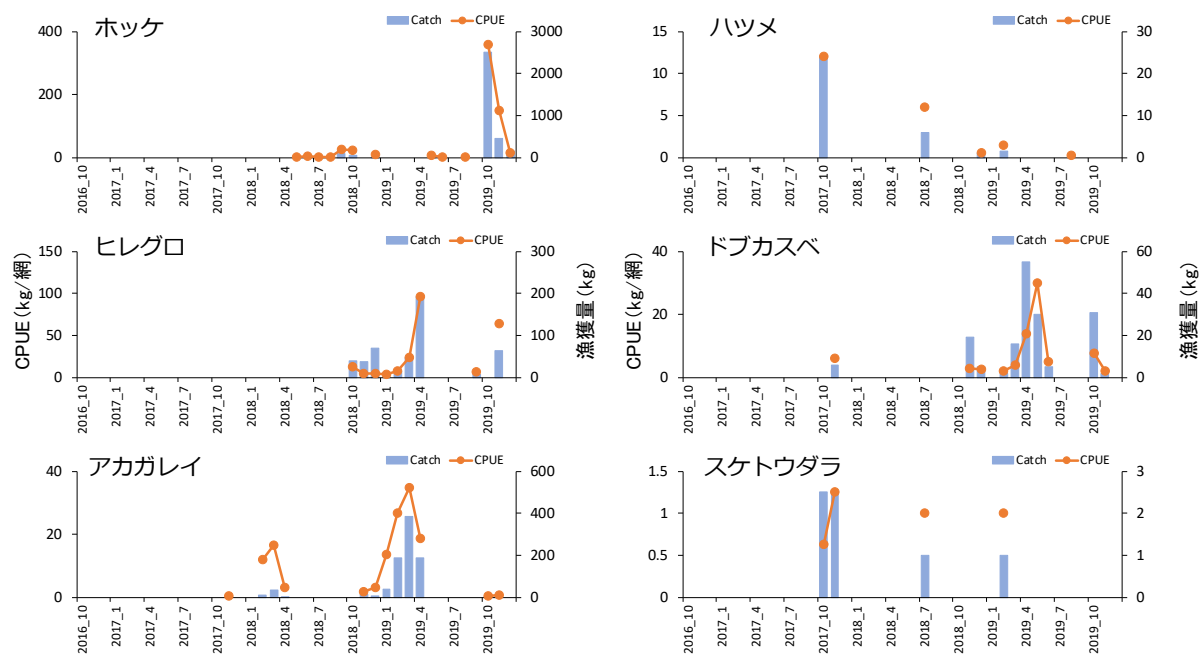


図2-3 2016年10月～2019年12月の魚種別の月別CPUEおよび漁獲量(その2)